

はじめに

杉浦郁子

この報告書は、和光大学現代人間学部現代社会学科／人間科学科の2023年度「フィールドワーク（市民運動と自治1）」（前期・2単位）および「フィールドワーク（市民運動と自治2）」（フィールドワーク+後期・4単位）の成果をまとめたものです。

この科目のねらいは、①さまざまな社会問題や人々の社会活動にふれるために現地に赴き、人間や社会に対する理解の幅を広げること、②市民による「自治」の手法と精神を、フィールドワーク（現場体験学習）を通して学ぶことです。これらのねらいを達成するために、2023年度は「東北地方における性的マイノリティの市民運動」をテーマにしました。

私（杉浦）は、「日本における性的マイノリティの社会運動」という市民の営みを、ミニコミ誌などのコミュニティ資料やインタビューから明らかにすることを研究テーマとしています。2022年には、東北地方における性的マイノリティの運動手法を分析した『「地方」と性的マイノリティ』（前川直哉さんとの共著、青弓社）を上梓しました。この本を書くときにお世話になった方々にこの科目への協力を依頼し、自治の実践と手法——暮らしを良くするために地域でどんな活動をしているのか——についてお話をいただきました。

* * *

郡山市（福島県）では、「ふくしまレインボーマーチ」共同代表の廣瀬柚香子さんに「デモの作り方」というテーマで話題提供をお願いしました。廣瀬さんには2019年にインタビューをさせていただいたのですが、その翌年から実施されるようになったプライドパレードをどのように作り上げていったのかを中心にお話をうかがいました。フィールドワークの参加者は、年齢の近い廣瀬さんが小さな一歩から始めたことを印象深く受け止めたようでした。

仙台市（宮城県）では、「てんでん宮城」で活動されている佐藤夏色さんに「つながりを作る・維持する」ことにフォーカスした話をさせていただきました。佐藤さんは「てんでん宮城」を1人で運営していますが、取り組む課題に応じて様々な人とつながっていきます。地域のしくみを変えるためにはそのつど適切な関係者とつながることが不可欠なこと、つながりを作ったり維持したりするためのシャドーワークに時間と労力を割いていることなど、なかなか聞けない活動の秘訣をうかがいました。

盛岡市（岩手県）では、「議員の仕事術」を学ぶために、盛岡市議会議員の加藤麻衣さんにお話をうかがいました。2019年に市民活動家としての加藤さんにインタビューをさせていただきましたが、加藤さんはその直後に行われた盛岡市議会議員選挙に立候補し、当選を

果たしました。それからの4年間の市議としての経験、議員として達成したことなどをご紹介いただきました。また、いったん市議を引退し、新たな挑戦に臨む思いなども率直に話してくださいました。

秋田市（秋田県）では、「性と人権ネットワークESTO」と「秋田プライドマーチ」で活動する皆さんに、「地域を温める」というテーマのもと活動報告をしていただきました。ESTO代表の真木柁鷹さんは秋田県を中心に25年間活動を続けており、様々な事情で秋田に居を構えることになった方々を結びつける役割を果たしておられるようです。真木さんが地域で活動をする知り合いに声をかけてくださり、真木さん以外に6名の方のお話をうかがうことができました。ESTOを中継地にして地域で横の連携が作られ、たとえばプライドマーチのような大きなイベントの運営が可能になっていることや、つながりながら無理をせずに活動をしていることなどがよくわかりました。

弘前市（青森県）では、「自治体パートナーシップ制度の作り方」をテーマに、弘前市議会議員の成田大介さんと、弘前市企画部企画課ひとづくり推進室の堤緑さんに「弘前市パートナーシップ宣誓制度」の成立の経緯などをお話いただきました。弘前市は、2020年12月に東北で初めて同性間の親密な関係を承認する制度を作りました。制度導入を求める市議、リーダーシップを発揮する市長、知識をアップデートして制度に落とし込む自治体の職員、その動きをバックアップする活動団体や専門家など、自治のプレーヤー相互の関係性がよくわかる会となりました。

* * *

この報告書には、以上の内容をできるかぎり記録にとどめることを目指しました。そのため、300頁の大部となってしまいましたが、興味のあるテーマをひとつでもお読みいただけたら、たいへん嬉しく思います。

2024年2月23日